

2013 年度前期 学部 FD 活動報告書

目次

1. 2013 年度 FD 研修(作業手順など)	2
2. 平成 25 年度 授業評価(表)	4
3. グループ編成表	5
4. 2013 年度 FD 研修会報告書(A～J 班)	6

明治薬科大学

FD 委員会

2013年度 FD研修

FD委員会
2013.04.22

研修の主旨:

FD研修会ではここ5年間、「教材作成」「模擬講義のピアレビュー」「新規国家試験の薬学実践問題（複合問題）を模した問題の作成」「実際の講義のピアレビュー」を行い、教員個々の授業の方法・内容の改善を図ってきました。特に、「実際の講義のピアレビュー」では、個々の講義の特徴、優れた点、改善点など多くのことを学び、また小グループ討論では普段余り話す機会も少ない教員同士が教育論について意見交換できたことは大変有意義でありました。本年度も本学の薬学教育をより一層の改善する目的で、教員による「**実際の講義のピアレビュー**」と同時に学生による「**授業アンケート**」も実施します。

作業手順:

1. 講義担当の先生は、FD委員会で前期授業がある先生にお願いすることとした。各グループのメンバーについては、昨年のグループ表を基本に、職位、専門分野に配慮し少し調整した。FD研修会グループ表を参照のこと。
2. 講義担当の先生は、グループのメンバーと教務課（kyoumu@my-pharm.ac.jp）に聴講してもよい日時（原則5月7日～6月7日の期間で、3回以上）を提示する。教務課から教員全員に講義日程を知らせる。評価に加わらないが、グループ以外のメンバーの聴講も可能とする。その際、聴講したい講義の先生に伝える。
3. 講義担当の先生は、聴講メンバーの多い授業で、学生に「**授業アンケート**」を書かせ、教務課に提出させる。
4. 講義担当以外のメンバー（評価者）は、6月7日までに講義を少なくとも1回を聴講し、**6月15日（土）**までに、「**評価表**」をまとめ役に提出する。
5. まとめ役の先生は、評価表をまとめ、グループ内で会合（小グループ討論）を開催し、評価内容や教育について話し合い、その内容を含めた「**評価表とレポート（Wordで）**」を**6月29日（土）**までに「**講義担当の先生**」と「**FD委員長**」両者に提出する。
6. 講義担当の先生は、講義中特に留意した点、苦勞した点等、また評価表に基づき、今後の授業改善に参考になった点など「**報告書**」を書き（Word、A4、1枚、1000字程度）、**7月31日（土）**までにFD委員長に提出する。

注1: まとめ役から提出された「評価表とレポート」は、FD活動報告書として匿名で公表されます。また、講義担当の先生から提出された「報告書」は、教育・研究・大学運営改善の目的で使用することがあります。

注2: 「まとめ役の先生の講義」が「聴講する講義」とバッティングするときは、まとめ役を変更することがあります。同様に「メンバーの先生の講義」が「聴講する講義」とバッティングするときは、まとめ役に申し出て、会合（小グループ討論）のみの出席でかまいません。

まとめ役の作業:

- ① 個々の先生から提出された評価表の項目1～12の平均点を算出し、自由記述の部分を個人が特定できないように配慮し、まとめる。
- ② グループ内の会合（小グループ討論）をアレンジし、司会を務め、提出用レポートを作成する。

注3: まとめた「評価表とレポート」は、評価者の氏名が特定できないように注意してください。

参考)「授業アンケート」について

ここで用いる「授業アンケート」の設問項目は、従来の教務委員会で実施している授業アンケートの一部を用い、回収率を高めるためマークカードで実施する。「授業アンケート」を実施した当日中に回収する。先生自身で回収し教務課に持参、または学生が教務課のカウンターに設置した回収Boxへ提出する。

● 設問項目

1. このアンケートに正当に回答できる程度、自分はこの授業に出席し、集中した。
2. 予習・復習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。
3. 教員の講義に対する熱意が感じられた。
4. 教員の説明はあなたにとって理解しやすかった。
5. 黒板・パワーポイント・ビデオ・教科書・プリント等の使用法があなたの理解の促進に効果的であった。
6. 授業内容の難易度は自分にとって適切であった。
7. この授業を受講したことにより、あなたのこの授業の関連分野または薬学への興味が増した。

*従来と同様、5段階評価で行う。

● 自由記述(マークカードの裏側に書く)

グループ編成表

2013.前期

FD 研修会グループ表

FD 委員会 2013.04.22

グループ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
まとめ役	熊澤美裕紀	服部豊示	古源 寛	大石一彦	遠藤一司	杉山重夫	石橋芳雄	赤沢 学	北原嘉泰	高橋晴美
講義担当	池田玲子	吉田久博	菅野敦之	野田知直	花田和彦	杉田 隆	岸野吏志	石井一行	兎川忠靖	小山清隆
	加賀谷 聖	斎藤直樹	古澤康秀	伊東明彦	長浜正巳	佐藤準一	高波利克	中館和彦	川北晃司	庄司 優
	岡田嘉仁	日野文男	越前宏俊	石橋賢一	小笠原裕樹	町田 いづみ	野口 保	川崎知己	阿刀田英子	石井文由
	高取和彦	永山敏廣	竹内典子	本島清人	小松 楠緒子	長岡博人	渡邊 誠	東 恭一郎	植沢芳広	江口直光
	足立 茂	門田佳子	菱沼 滋	大野恵子	日堂 修	林 弘美	池上洋二	山崎紀子	山田俊二	下川健一
	大山悦子	高村 彰	高取 薫	松井勝彦	溝口則幸	佐野和美	三田充男	野澤玲子	野地匡裕	松本邦洋
	小川竜一	石田洋一	宮沢伸介	樋口和宏	浦辺宏明	鈴木俊宏	片山昌勅	馬場正樹	横田明美	小林健一
	斎坂ゆかり	田 靖子	小川泰弘	月村考宏	赤埴順子	鈴木 正	庄野あい子	飯田克巳	林 賢	岸田 敦
	*	*	山田聖子	小関珠美	高橋雅弘	*	木村真也	新井恵子	田湯正法	*

(横屋正志: 留学中)

FD 委員会

川崎知己 (委員長)、阿刀田英子、石橋芳雄、伊東明彦、庄司 優、竹内典子、日野文男、小松楠緒子、熊澤美裕紀、草地 聡

平成 25 年度 FD 研修会報告書 (A～J 班) ^{a)}

1) 授業評価結果表

	項目 \ 班	A	B	C	D	E	F	G	H	I ^{b)}	J
1	授業内容がシラバスに沿っている。	4.8	4.5	4.4	4.6	4.7	4.9	4.6	4.9	4.0	4.6
2	教科書を指定している場合、適切に使用している。	－ *9	－ *多数	4.3	4.8	4.1	4.3	4.8	4.0	3.0 *1	4.0 *4
3	教科書以外の教育媒体を適切に使用している。	4.6	4.1	3.8	4.3 *多数	5.0	4.2	3.7 *1	3.7 *4	－ *6	4.0
4	話は聞き取りやすい。	4.8	4.2	3.9	4.3	4.3	4.2	4.9	4.6	2.3	4.4
5	進行の速さは適切である。	4.4	4.5	4.3	4.8	3.4	4.0	4.1	4.4	4.0	4.2
6	興味を持たせるような工夫がある。	4.3	3.6	4.3	3.6	4.1	3.7	3.9	3.9	2.7	4.2
7	学生の質問・発言等があった場合、適切に対応している。	－ *9	－ *多数	－ *9	3.0 *多数	－ *7	4.3 *6	4.0 *6	－ *7	－ *6	4.0 *4
8	学生の理解度を確認して授業を進めている。	3.1	4.1	3.7	3.8	3.1	3.0	3.3	3.1	2.2	3.2
9	他の授業科目との関連についてふれている。	3.4	3.4	3.9	3.7	3.9	4.0	3.1	3.9	2.2	3.4
10	私語や不適切な行動があった場合、適切に対応している。	4.0 *6	－ *多数	3.4 *1	4.0 *多数	－ *7	4.2 *3	3.2 *2	3.4 *2	2.0 *1	3.0 *3
11	講義の準備が十分ある。	4.9	4.4	4.4	4.6	5.0	4.8	4.3	4.3	4.0	4.0
12	総合的にみて、わかりやすい授業である。	4.7	4.1	3.8	4.6	4.1	4.8	4.4	4.5	3.0	4.4

次の(1)～(5)の評価の平均値を示した。(1)全くそう思わない(2)そう思わない(3)どちらでもない

(4)そう思う(5)強くそう思う(*)項目が該当しない場合(*の後ろの数字は人数)各班原則10名参加

a) 1～10班を順不同でA～J班と書き替えた。

b) 演習科目は授業評価には適さないと判断され、講義聴講者の授業評価が用いられている。

2) 学生授業アンケート^{a)}

	項目	班	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	受講学生数		102	37	48	157	95	106	94	102	136	134
1	自分はこの授業に出席し、集中した。		3.8	3.7	3.7	3.8	4.3	3.7	3.7	3.7	4.0	3.6
2	予習・復習などにより、この授業に積極的に参加した。		2.7	2.6	2.6	2.4	3.0	2.9	2.9	2.9	2.7	2.8
3	教員の講義に対する熱意が感じられた。		4.1	4.0	3.7	3.3	4.4	3.6	3.6	3.6	3.7	3.7
4	教員の説明は、あなたにとって理解しやすかった。		3.9	3.2	3.0	2.8	4.1	3.6	3.6	3.6	3.2	3.6
5	黒板・パワーポイント・等の使用法が理解の促進に効果的		3.8	3.5	3.1	2.8	4.2	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5
6	授業内容の難易度は、自分にとって適切であった。		3.8	2.8	3.1	2.8	3.7	3.6	3.6	3.6	2.8	3.4
7	この授業の関連分野または薬学への興味が増した。		3.7	3.1	3.0	2.9	4.1	3.5	3.5	3.5	2.7	3.3

次の(1)～(5)の評価の平均値を示した。 5:強くそう思う 4:そう思う 3:どちらでもない 2:そう思わない 1:全くそう思わない

a) 1～10班を順不同でA～J班と書き替えた。

【設問番号】

- 1 このアンケートに正當に回答できる程度、自分はこの授業に出席し、集中した。
- 2 予習・復習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。
- 3 教員の講義に対する熱意が感じられた。
- 4 教員の説明は、あなたにとって理解しやすかった。
- 5 黒板・パワーポイント・ビデオ・教科書・プリント等の使用法があなたの理解の促進に効果的であった。
- 6 授業内容の難易度は、自分にとって適切であった。
- 7 この授業を受講したことにより、あなたのこの授業の関連分野または薬学への興味が増した。

3) 各班の授業評価に関するコメント

今年度の報告書では、まとめ役の報告でも教員名や科目名が「〇〇」と置き換えられていたが、コメントの内容がわからなくなる語句はそのまま残されていた。全体のまとめの際にも、一部「〇〇」とした。A～J班のコメントは授業結果表および学生授業アンケート表のA～J班に対応する。

A 班

1. 評価項目

(1) 優れている点

経験に基づいた良い授業、わかり易い、学生の方を向いて話している、資料がまとまっている、等

(2) 改善を要する点

話し方にもう少しメリハリが有った方が良い、学生の手を動かす工夫が必要、学生がプリントに記入する形式の方が良い（聞くだけだと内職をしている）、学生に話す機会を与えた方が良いのでは、スライドの字が小さい、配色によって見づらい（白地に水色）、ハンドアウトがスライド6枚/頁のため小さくて見づらい

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

黒板の活用、緑のレーザーポインターが目に優しい、自分の経験に基づいた話に学生は興味を持つ、話し方が穏やか、全てのパソコン操作を手元の機器で行っている点

2. FD グループ討論

FD評価表に基づき、討議を行った。〇〇先生の講義はおおむね好評であった。特に話し方が穏やかで、わかり易い授業であるとの意見であった。実際の〇〇での経験談などを交えた話が特に学生の興味を引くようであった。

改善する点については、話し方にもう少しメリハリをつけたほうが良いのではという意見が多かった。学生に手を動かす工夫として、国試の過去問を出して解かせることや資料に空白などを作り、学生自身に書き込ませる工夫があったほうが良いとの意見がでた。更にスライドの字が小さい部分があり、後ろの方では見難いので改善が必要、ハンドアウトの字が小さくて読みづらいなどの意見がでた。この点については改善を試みられたい。

最後に、FD全体に対する意見として、他の先生の授業を聞くことは非常に役に立つので、FD期間に限らず、自由に参加できるようにしても良いのではとの意見であった。自由に聞ける機会が増えれば個別にFDとして行う必要もなくなるのではとの意見であった。

B 班

1. 評価項目

ほとんどの評価項目が4点以上(4.1～4.5)であった。「興味を持たせるような工夫がある」「他の授業科目との関連についてふれる」の2項目が3.6と3.4であった。

(1) 優れている点

今回の授業内容は、グループの全員から、講義が丁寧であるとの評価であった。板書とパワーポイントの使用を使い分けていることなど、とても評価が高かった。

- ・声の大きさ話の速さは聞きやすくていい。
- ・板書の文字の大きさ図式などわかりやすい。

- ・次回の実習のため前回の復習から始め 本題に入っていくのでわかりやすい。
- ・全て板書で授業が行われており、理路整然と、流暢でよどみ無く、内容が完全に頭に入っている点、
- 字も読みやすく、図もわかりやすく、声も聞きやすい。
- ・説明が丁寧で分かりやすい。
- ・説明がとても丁寧である。
- ・講義のゴール(獲得目標)を学生へ説明している。
- ・内容を簡潔に話している。
- ・ややもすると難解になりがちな内容を整然と系統的に説明するための努力が感じられた。
- ・大切なポイントを丁寧に指摘していた。
- ・講義時間の最初 40%程度を使用して前回内容の復習をし、今回内容との関連を説明していた。
- ・「実際の医薬品開発では、、、」と、講義内容が就職後にどのような場面で活かされるかについて具体的に触れていた。
- ・学生に個別のテーマ(特定の薬を指定し、その薬物代謝について調べる)を与え、自主学習させている点
- ・授業で学んだ知識を実際の薬に即して理解することができると思われる。
- ・真面目な雰囲気。

(2) 改善を要する点

今回の科目が生命創薬科学科の学生を対象としていることから、学生に興味を持たせるような講義をすることがかなり難しいのではという意見があった。被評価者も、意識しながら医薬品開発などの例をあげ関心を持たせる工夫を行っている。

また、評価した授業が、講義形式の場合と演習形式の場合があったため、評価が微妙に異なるものがあった。

- ・学生に質問または確認しながら話を進めるのもいいかと思う。
- ・淡淡としているので、メリハリがあるとベター
- ・学生の興味を引き出すという点で、生命創薬科学科の学生に対しては難しい気もするが、ついていけない学生が、明らかに見受けられたので、それが課題と思われる。
- ・特に見当たらなかった。
- ・PP を利用するため、座ったままの講義の時間が長い、時には、立って講義をすることも必要と感じた。
- ・淡々とした講義であるが、メリハリが必要ではないか(少人数なのに後ろに授業に参加していない学生がいた)。
- ・前半の講義の部分はライブ感が足りないと感じた。学生はパワーポイントを見るためというよりは、むしろ先生を見るために講義室に足を運んでいるという面もあると思うので、できるだけ立ち上がって教壇の中央付近に近づいて話したほうが、内容が受講者の頭に残りやすいのではないかと思います(講義形態による制約はあるかと思いますが)。その点では、演習の解説は良かったと思います。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- ・残り30分で演習問題を当てた学生に黒板で解答してもらう方法は緊張感を持って授業に臨んでもらうのにたいへん良いと思う。
- ・学術的な雰囲気
- ・学生に課題を与え、授業中に黒板で問題を解かせていたところ

- ・式を多用する範囲のため初見者には複雑だが、演習問題を講義中に学生に解かせることで、理解度を深めていた。さらに、演習問題は指名制のため、学生も緊張感をもって講義を受けていた。
- ・PPの利用時に赤字で丁寧に説明すること
- ・学生に興味を持たせるようにさらに工夫したい。
- ・資料の準備が入念になされている点を見習いたいと思った。
- ・講義と演習をうまく組み合わせているところはすばらしかった。
- ・授業に関する課題を与え、自主学習を促すこと。

C 班

1. 評価項目

(1) 優れている点

<板書、スライド>

- 教科書が中心に進められている。教科書に記載されている項目だが、板書を適宜織り交ぜ、学生に注目させる工夫がされていた。
- 板書の字の大きさは、後ろからでもよく見えます。
- 重要な点の話しをするだけでなく板書していたのは、覚えやすいと思う。
- 最後に授業のまとめを、パワーポイントで行い、再度要点を確認していた。
- 授業の最後の10分でパワーポイントを使用して、学生に本日の重要点をまとめた。
- スライドを用いてその日の授業の復習している。

<講義の方法>

- 声のとおりが大変良好で、学習内容に即した例（ニュースなど）を提示しているので、理解しやすい。
- 話し方が柔らかく、学生に分かりやすく話している。
- 聞き取りやすい早さで、教科書の内容の説明、補足を中心に板書きで授業を行っていたので、学生は集中し話を聞いていた。
- 講義内容の量もやや少なめで、良く精選され適切であった。
- 次回の講義へのつながりを持たせるような講義をしている。
- 授業開始は多少ざわついてはいたが、それほど注意しなくても学生は教科書の指定ページを開いて集中していた。

<具体例>

- 実例を写真で示して話されていたので、非常に良い講義だと思います。
- 最後にスライドの写真など具体的画像で復習かねてビジュアル的に訴える点
- 清瀬市の〇〇などを交えて話しているので、授業内容がより身近に感じられた点
- 身近な題材に結び付けて興味を持たせる工夫が随所にみられた。

<実習、その他の関連>

- 実習内容と連動しての解説
- 実習、他の授業科目との関連性を伝え理解が深めている。

<国家試験、重要点>

- 「覚えておきなさい」「読んでおきなさい」「キーワードを繰り返す」など、重要箇所および国試出題頻度の高い箇所などを口頭で繰り返し提示している。メモを取り、教科書に印を入れている学生がいた。
- 国家試験に良く出題される項目を授業の時に説明していた点
- 大切な内容、国試に出る内容は復唱し、学生に周知させている。

(2) 改善を要する点

<学生、態度>

- 講義の始めは、学生がざわついていたためか、マイクの音量が小さく聞こえた。中盤からは、後まで聞こえたので、最初はもう少し大きく話して注意を引くといったことをすると、早く落ち着くかと思う。
- 学生数に比べて教室が大きすぎるので、もう少し小さい教室を使うか、後ろ 5 列ほどを使用禁止にするべきです。
- 学生が教科書を持ってくるのは当然としても、教科書を書画カメラで提示しながら講義を行うほうが、学生の理解度が向上するだろうと思いました。
- 全般に話をしっかり聞いていた学生だが、先週のプリントを忘れたため、そのプリントの話しについて行けないのか、つつい iPhone に手が行っているのが惜しい。持ってこない学生が悪いと言ってしまえばそれまでだが、資料提示装置でプリントをサブスライドに映してやるのも手かと思います。
- 生命創薬学科の学生に対して、学習の動機付けに国家試験を使ってはいけないうらうと思います。後で、薬学科の講義も拝聴した。生命創薬学科とは異なり大変静かだった。ちょっと考えさせられてしまったが、おそらく創薬学科の学生には、この科目に対する学習のモチベーションを見つけられない、もしくは、こちらが提示できないのらううと思います。
- Cクラス（生命創薬学科）だったせいもあるのかもしれませんが、寝ている学生、教科書を持っていない学生が見られた。

<板書、スライド>

- 板書の箇所が、黒板の中央から左側に集中しています。右側にいる学生にも意識をされては。また、青色チョークはやや見にくいです。
- 最後に使用されたパワーポイントは、まとめ以外に具体例（写真、図など）も混ざりスライドが多くなっているため、まとめ感が弱くなっています。また、パワーポイントの字が小さいため、まとめの部分だけでも資料が欲しいと思う学生もいるのらううかもしれません。もう少しまとめをコンパクトにすれば、資料を配布する必要はないかと思いますが。
- 最後に、パワーポイントをまとめのように使っていましたが、どうしても授業終了時間を越えてもプレゼンが終わりません。これは大変よろしくないと思います。大変重要であるなら、最初にパワーポイントのプレゼンを提示していただきたいし、そうでなければ、後は各自パワーポイントを見ておいてくださいで十分であると思います。
- 実際の写真を取り入れたスライドは、本講義での目玉と思いますが、出来れば時間配分を多めに取って、ゆっくり説明した方が良いのではないかと思いますが。
- 復習スライドの使い方。せっかく準備して有るので授業の中で提示した方が良いのではないのでしょうか。
- 後方の席から板書（特に下半分）が見にくい。
- スライドの字が小さいので、もう少し大きくした方が良いです。

<講義の方法>

- 教科書の要点をサイドのスライドに提示するなどして、どのような内容を講義するのかを示しておくとう授業の内容について行きやすいのではないかと思いました。
- 講義で用いている教科書を説明する時に、ページや段落などをもう少し入れると良いのではないのでしょうか。（聞いていない学生が悪いのらううかもしれませんが、「今

どこ？」という声が何度か聞こえた。）

- 法規改訂前の教科書で改訂のポイントを解説する際、「付表〇〇をみて」に「教科書P〇〇の」というページ指定があるとよりついていきやすいのでは。
- 話しの中で、「先程の・・・」と関連づけた話しがなされているが、もう少し具体的に指示した方が良いと思います。また、「これは後で・・・」と具体的な例などが、時間の関係からか、後回しになっている。聴く側としては、その場で提示して貰うと印象が強くなる。パワーポイントや資料提示装置でサブスクリーンにちらっと見せるという方法は如何でしょう。
- 過去の〇〇など具体的社会問題を話されているが、視覚的なものが同時に示されると、もっと先生の話にのめり込んでいけそうです。
- 教科書を読んでいる生徒が多いのはよいことですが、先生が板書している時にも下を向いている事が多いようなので、上を向かせる何かしらの工夫を入れるとより効果的だと思う。

<その他>

- 声は聞き取りやすいが、少々早口に感じる。
- 多少時間が足りなくなってしまった。クラスによって授業と並行に行われている実習の進度が違うようなので、実習で教えていないことを説明に加えなければならないことがあった。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

<進め方、時間配分>

- ゆったりとした授業ペースとなるよう講義内容を厳選・工夫されている点。
- 身の回りの事をイントロに話しをして、講義に入る点を参考にしたい。
- 授業の合間、合間にそれまでの講義のまとめの説明を入れ込んでいる点。
- 先生の体験談を交え具体的な事例を使って説明されていた。具体的事例を自分の講義にどういかせるか考えてみたい。
- その日の授業の内容を振り返る時間。

<教科書と板書・スライド>

- 必要なことを先に解説しておいて、復習かねて後からビジュアル資料を提示するのも、ずっとスライド上映より眠くならず有効な手段かもしれない
- 板書を僅かに用い教科書中心で講義する話術を見習いたい。パワーポイントや資料提示装置を使うと、つい指示代名詞（「ここ」「この様に」とか）が多くなるが、一言一言が具体的で明確である。
- 板書きとパワーポイントを使い分け。
- 語句の定義などでも細かく教科書内のページを指定し有効に教科書を活用している点。

<その他>

- 他の〇〇学などの講義との関連性を伝えていたので、自分の講義にも取り入れたい。
- 具体的事例から問題提起して学生に問題意識を持って考えさせる点。
- 国家試験関連科目なので、国家試験に関連する要点を強調することで学生の集中力を維持させていた。

2. その他

- 遅刻した数人の学生が授業中に、教卓の前にあったカードリーダーにタッチした。
- カードリーダーでの出席管理： 遅れてきた学生数名（同じグループ）が、教壇

に戻っているリーダーまで出席を取りに行った。それにつられ周りの学生数名も同じ行動をしている。50分遅刻（10:10）した学生（同じグループ）も出席を取りに前へ行っている。こういう状況をどう考えるか、難しいところである。

- 104 教室の構造的問題なのか、後方の学生の中に、授業中の入退室する、授業に参加していない、i-Phone を離せない学生が散見された。ただ、i-Phone は授業内容を検索しているという見方もあるが。

3. 小グループ討論での主な話題

1) 学生態度と出欠

遅れてきて出欠だけ取りに来る学生がいる。一方、まじめに授業を受けないうるさい学生もいる。出欠だけとって授業を受けない学生は退出させてはどうか、まじめな学生の邪魔にならない様な配慮が必要など、問題提起と提案が多数あった。

2) 教室の大きさ、クラス編成

学生態度の問題は教室の大きさが原因、薬学科は学生が多く教室（101 もしくは 104 教室）が狭すぎる。一方、生命創薬学科は学生が少なく教室（102 教室）が広すぎる。学生数にあわせた教室を使う方が良いという提案あり。一方、両学科共通の必須科目に関しては2年時と同じように全学年を3つに分けて授業を行う方がやりやすいのではという意見もあった。いずれを選択するにしても教員レベルでは対処が難しく、教務課（もしくは執行部）で検討していただきたい。

3) マルチメディア機材の利用

スライドで写真を見せながらの授業について、限られた時間の中で効率的に授業を進める方法として、書画カメラやサブスクリーンを活用して複数の情報を同時に示す（板書と写真）方法など様々な工夫が紹介された。この意見交換は参考になる点が多かった。

4) その他

学生への問いかけ、質問など双方向の授業形式は、興味をもって参加させるためには効果的だが、時間がかかる。教える内容と使える時間のバランスについて考えさせられた。

D 班

1. 評価項目

全体的によく準備されたわかりやすい講義であった。グループ討論の結果を「良かった点」と「今後の課題」にわけて報告する。

(1) 優れている点（良かった点）

- 1) 淡々と授業が展開され、ほとんどの学生が熱心に聞き入り、ノートに書き写している。
- 2) 教科書に沿って適切な解説をしている。
- 3) 必要に応じて、国家試験の話を取り入れ、学生が飽きないようにする工夫がみられた。（教科領域によっては効果的な手段かもしれない）
- 4) 教科書と黒板を使って説明しているので、話す速度と板書の速度がちょうどよい。黒板に絵を書いて説明するのもわかりやすい。
- 5) 黒板を使用することにより、部屋を真っ暗にしてスライドをどンドンめくっていくような（これまで FD のピュアレビューで受けた）他の講義よりも、普通に真面目にノートをとって聞いている学生が多いように思われた。4限の講義なので、こちらが驚いた。

- 6)他の章との関連性を示しながら説明している。
- 7)話が非常に聞き取りやすく、ポイントになる語句を板書しているのので、学生はノートを取りながら話に耳を傾けることが出来る。
- 8)話の速さが適切で、聞きやすかった。ピンマイクを使用していたので、音声途切れず、語尾まではっきり聞こえた。
- 9)前回の講義内容を確認し、重要な点を再度説明している。
- 10)身近な例を挙げて、内容を分かり易く説明している。
- 11)何と言っても、不気味なくらい教室内の雰囲気が統制されていることには驚いた。睡眠学習、携帯に夢中になっている者、私語を発する者はほとんどなく、静まりかえっていた。

(2) 今後の課題

〇〇先生の講義に関する課題としてではなく、大学全体の問題として教員会議等で審議・検討することが望まれる問題として第2グループで議論した点について紹介する。

- 1)講義室の101と104は拡張した関係で縦長の講義室となっている。後方の座席でも講義が受けやすいようにテレビモニターが2台設置されている。ただし、このモニターには、資料提示装置などによる映像を映すことは出来るが、黒板の文字を投影することは出来ない。教室のIT機器の更新をする予定があると聞いているが、更新にあたっては教員に機器の使い方(使い勝手)について意見を聞き取ってから機器の選定や更新を行って欲しい。
- 2)教室の電源コンセントから携帯電話(スマホ)の充電をしている学生をしばしば見かける。電気代としては微々たるものであるだろうが、モラルの観点からみると不適切である。大学として「携帯電話等の充電禁止」と公示していないので、注意して良いのかどうか迷う。それゆえ、大学としての方針を確認したい。
- 3)国家試験の出題数と授業のコマ数が一致していない科目がある。そのため、少ないコマ数で広範囲の講義をする教員の場合、講義の進行が早くなりがちであるなど、学生から不満がでることがある。新カリキュラムを検討する際には是非とも、十分に考慮して欲しい。ただし、この問題については、「本学は国家試験予備校ではないのであまり意識しすぎる必要はないように思う」との意見もあった。
- 4)カードリーダーで出席登録をした後、講義室から堂々と退出する学生がいる。1年生の「薬学への招待」をはじめとして、上級学年の講義でもしばしば見受けられる光景となっているようである。出席のチェックについては、「出席を取る・取らない」をはじめとして各教員に任されている事柄であるが、現状のまま放置して良いのか疑問である。本グループ内における討論で結論を導くことは出来なかったが、何らかの機会に大学として検討すべき問題であるように思える。
- 5)グループ毎に講義担当者が決まっていてその先生の講義を聴講することになっているが、専任教員の講義であればどの先生の講義でも聴講しても構わないことにした方が良いとの意見があった。

E 班

1. 評価項目

(1) 優れている点

- 声の大きさは適切で、歯切れ、テンポともによく、聞いていてこちよい。最近話題の病気、〇〇や〇〇炎、垢擦りの問題点など、身近で誰もが興味を持つ話題

を取り上げ、飽きさせない工夫が見られる。「話す早さがこれでいいか？」などの確認、「〇〇炎のできているヒトは手を上げて」など、学生の反応を意識しながら講義を進める点も評価される。「この講義で覚えておくことは、これこれである」など、メリハリが利いている。15分前に一通り話し終え、最後にPPを使用して、ポイントを繰り返す点も良い。魅力のある講義である。

- ノートを取らないで済むようにスライドのプリントを配布している。
- 講義の後半で全体の復習を行い、重要な点を再確認していること。
- ハンドアウトが見やすく、適切な大きさである。1枚に入れる情報量が適切である。
- 発声が明確で言葉が聞き取りやすい。
- 後半の20分間程で、まとめの復習を行っている点
- パワーポイントをうまく使用している点
- かなりの分量について一コマの講義において扱っている点
- テンポ良く、ユーモアもあり、学生さんの集中力を持続させる工夫が随所に見られました。さらに、講義のポイントが明確で、理解しやすい講義でした。
- そして何よりも、〇〇先生の〇〇物を愛する気持ちが伝わってきて、「こんなにも1人の人を虜にさせる〇〇物って何だろう」と、先生のお人柄自体が、学問への興味につながるように強く感じました。
- 前回の授業の疑問点の解消から入っている。
- 配布資料の説明している場所が明確に示されている。
- 最後に復習する点

(2) 改善を要する点

- 少し早口である。レベルの高い学生にとって問題は無いが、理解のちょっと遅い学生は、ポイントを聞き逃す可能性あり（「早くて書き留められないことがある」と言っている学生がいた）。その場面で繰り返して、話す必要ありか？
- 「〇〇炎のできているヒトは手を上げて」という質問に対し、手を上げた学生は一人もいなかった。質問方法に一工夫必要
- 学生に直接質問して解答させることにより、学生の理解度を確認すると良かった。
- 自分に返事しているような「ハイ」という口癖が多かった。
- 後方の学生の中には、あきているのか、音楽を聞いたり、他の本を読んだりしている学生が存在した。
- 用語などの解説にとらわれすぎており、〇〇症の学習の本来の楽しさが伝わってこなかった。〇〇だらけの家の写真などを初めに見せてから、プリントの解説に入った方が良かったかもしれない。
- 進行の速さに関して、「どちらでもない」と採点しましたが、確かに、早口でしたが、明瞭な口調でしたので分かりやすかったことと、また、今回の講義は、「用語を確認しましょう」というように講義の目的がはっきりしていたので、今のままで十分だと思います。
- 最後に示したPP資料に授業中に指摘した内容（加筆、マークを指示した事）があったら、学生が確認できるのではないかと思いました。
- 学生によっては、単位時間当たりの情報量が多いかもしれません。講義の後半において、一部の学生が飽和状態になっていたようでした。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- 講義予定分の内容を余裕をもって話終え、最後に 15 分間かけて、ポイントを繰り返す手法。
- 講義の最後に本日のまとめを取り入れること。
- 最後にスライドを見せながら、授業を復習し更に興味を引く映像を織り込んでいくところに、工夫が見られ参考にしたいと思った。
- 上記の優れている 3 点
- 要点を明確にして、くり返し伝える技法を参考にさせて頂きたいと思います。
- PP の配布資料をもとに授業を進行して最後にスクリーンで確認するという方法は初めて拝見しました。写すのに必死でスクリーンを見ない学生にポインターで説明していてスクリーンを見ていない学生に歯痒い事があったので、バランスと時間配分を考えて、自分にもこのような手法を取り入れてみたいと思いました。
- 最後に復習する点

2. 小グループ討論

講義そのものについて

全般的に内容の濃い、充実した講義であった。講義者本人は早口であると自覚し学生にも宣言していたが、歯切れがよくテンポよく講義が進行するので、特に違和感を感じさせなかった。実に 87%もの学生が集中して講義を受けていることが、学生アンケートから明らかになっている。講義における配布資料も的を射たものであり、わかりやすく構成されている。また、初めにプロジェクターの映写を使わずに配布資料のみを使い、必要に応じて板書しながらの解説をし、最後の 15 分程度でパワーポイント原稿をプロジェクターにより映写しながら復習するスタイルの講義は、独自のものであると、評価が高かった。自分の講義にも取り入れたいとする参加者が多かった。また、講義者によると、前期の最後の授業は学生から「もう一度説明してほしい」と要望が多かった内容を復習する時間に割り当てているとのことで、学生にとってそれは 1 回目の講義の終わりの復習と合わせて 2 回にわたる復習の時間をもつことになる。非常に丁寧な講義形態であると、高い評価を得ていた。細かい点では改善の余地があると指摘する参加者もいる中、全体として完成度の高い講義であることが一同で確認された。

小グループ討論会で出た話題から

ー 過去問について ー

講義する際に過去問の扱いについての話題が上った。公にするタイミングとして、1) 1 回目の講義が始まる時に渡す。2) 全講義が終了する時に渡す。3) あらかじめアップしておく、が考えられる。過去問を公にすることは、試験勉強につながる反面、学生によっては本試で通るためだけの過去問しか勉強しない学生もいるので、一長一短であるとの認識があった。しかし、講義における重要な点が明らかになるので、前もって配る手法もあると認識された。また過去問の解答を公にするかについては、その解答を丸暗記する学生がいるので公にしなくなったという意見がある一方で、一部の学生が誤った解答を作成し、それが出回ることになるので公にしているという意見も出た。計算問題を出題する科目については、数字や出題形態を変えることにより理解度が分かるので公にしているという意見も出た。

ー 現在の明薬の講義と学生について ー

現在の明薬の講義は非常にレベルが高く、最高級であるという意見が出た。数十年前から数年前における一部の講義においては、学生から不満が出るような準備状

況の悪い、非効率的な講義があったが、それが今では劇的に改善されていると感じられる。それに反して学生の質が年々低下しているために、残念なことになっている。講義の後に質問に来る学生が減っていることから、積極的に学ぼうとする姿勢にも陰りが出ている。数十年前のひどい講義を受けた学生たちは講義に見切りをつけ、自分で学習する道を選び、自ら本を読み学問の面白さに気付くというパターンがあった。今の学生は出席率は高いものの、自ら学習するという姿勢に欠けている。

一 学生の理解度を確認して授業を進めることの難しさについて ー

講義中に学生の理解度を確認することは困難が伴う。問いかけても反応は乏しいし、挙手させるシステムも問いかけに余程の工夫がない限り学生は微動だにしない。小テストをすることは学生の理解度を量ることができる良いシステムである。また、〇〇先生のようにメールでの質問を受け付けることも、学生からの質問を促すことができる手法である。

F 班

1. 評価項目

(1) 優れている点

<板書、教材について>

- ・黒板の字がきれい。
- ・板書が見やすい。
- ・スライドの写真や色分けは効果的だと思いました。
- ・教科書では理解しづらい部分に対し、ハンドアウトを用意しているのが良いと思いました。
- ・プリント、図説、スクリーンの利用が効果的
- ・教科書と補助教材（スライド、配布資料など）をバランスよく活用していたので、学生にはわかりやすい樹上であると強く感じました。他の教科と関連付けて説明している（繁用されている抗生物質を取り上げて、わかりやすい説明がなされている）。

<講義内容、講義の進め方について>

- ・イントロで本日話す内容について簡単に触れてから本筋に入っていく、最後に今日は何を話したか説明したので、理解に繋げやすかった。
- ・授業の内容がとても厳選されており、難しい内容も分かるように講義されていると感じた。
- ・初めに概略を話しているのでわかりやすい。
- ・講義の時間配分がよく管理されていると思いました。
- ・時間配分が適切。
- ・ありません。

(2) 改善を要する点

<講義の内容や進度について>

- ・また、この授業が将来医療現場のどのような場面で必要になるかを話していただけれると興味をもっと持つように思った。
- ・1回の講義テーマをかなり絞り込んでいるせいか、話の展開がやや遅い印象がありました。
- ・後ろの席では、少し声が小さく、聞き取りづらかった。

<学生への対応について>

- ・ Interactive な講義であればより良いと思いました。
- ・ 学生の理解度の確認やアイコンタクトは少なかったように思うので、もう少し学生とのコンタクトを取り入れた雰囲気があったらいいと思った。
- ・ 教科書を持ってきていない学生への対応
- ・ もう少しメリハリがあったほうが学生の集中力がもつかもかもしれません。
- ・ 50分くらいたつと学生の集中力が落ちていました。
- ・ 後半寝ている学生が数名いました。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

<講義の進め方や内容について>

- ・ 教科書のすべてではなくポイントを確実に説明したい。
- ・ 最後に講義のサマリーを示すのはとても良いことだと思います。
- ・ 学生が理解しやすいように要所所で今何を説明しているのかを振り返っていた。
- ・ 教科書の網羅的な内容とせず、ポイントを絞った内容で授業の消化不良を起こさないようなボリュームで抑えている点は自分の授業にも取り入れたい。

<黒板や教材の活用について>

- ・ 実習講義では、実験操作、実験器具等のスライド（写真）を活用することで、より説明しやすく、学生にもわかりやすい。補助教材としてスライドは、ぜひ活用したい。
- ・ 板書の文字の大きさが大きめで、後列の席から見ても見やすかったです。この点は取り入れたいと思いました。
- ・ 板書を見やすくするために、きれいな筆記を心がけたい。
- ・ スライド等の有効活用

2. グループ会議での意見交換

FD研修などを通して、教員の授業方法などは昔に比べるとよくなってきているのではないだろうか。そこで本グループ会議では、教員の授業改善とともに、学生の受講態度改善についても議論を行った。

◆講義を担当された先生から

昔の学生に比べると、今の学生は講義中にとっても静かにしている。しかしながら、講義を聞いて静かにしているというより、他のことをしているだけというところもある。

講義のレベルは昔に比べるとかなり下げている。以前は学会で報告されたようなホットな話題も取り上げていたが、試験で不合格になる学生が増えたこともあり、難易度を下げようになった。

前のほうに座って熱心に講義を聴く学生と、後ろのほうで何をしているのかわからない学生が混在する中で、熱心な学生には易しすぎる内容かもしれないが、一方では試験で点数が取れない学生もいるので、このような幅のある学生全体に目を向けるのは難しい。

◆さらに、FD研修や学生の意識改革などについて意見交換を行ったので、以下に記載する。

- ・ 教員は昔に比べるとはるかにわかりやすく、丁寧な授業をするようになっていく。教員の改善とともに、学生の意識改善も行うべきである
- ・ 学生に、医療人あるいは医療にかかわるものとしての使命感を持たせることが

大切である

- ・ 国家試験のための勉強だけでなく、動機づけができるような講義内容が望ましい
- ・ 講義の出席が 2/3 以上というのは必要かどうか。また、出席点を考慮するとシラバスに書くのはいかなものか。
- ・ 学生の危機感がない。留年しても自己責任だったものが、教員や大学のせいに見える。

<具体的な提案>

- ・ 標準実習の報告会を低学年（2年生ぐらいから）にも聴講させて、意識を持たせる・
- ・ その学年のレベルに合った話ができる外部の人を招き、学生の討論会をする。（1年生「薬学への招待」の2、3年生版）
- ・ 講義では分野ごとに縦割りになる傾向があるので、外部の人に横断的な話をしてもらう。
- ・ 低学年の講義を担当する教員が関連分野の高学年の講義の一部を担当し、低学年での講義内容の復習や大切さを学生に再認識させる。
- ・ 教員が他の教員の講義を聴講できるようにし、分野間の重なりを探し、自分の講義で活かす。
- ・ 講義後に質問に来るのではなく、講義中に積極的に発言する学生を育てる。

G 班

1. 評価項目

(1) 優れている点

- 喋り方が明快で、声がよく通り、聞き取りやすかった。
- 板書がきれいであった。
- 他の科目との関連性や、日常生活に関連する話題についても提供しておられた。
- 重要なポイントを教科書にアンダーラインを引くように学生に促しており、学生が内容を理解しやすいと思われた。
- 国家試験問題と絡めてポイントを説明していた。
- 学生が集中して講義を聴講していた。
- 出席カードを配る際に学生からの質問を受け付けていた。

この中で、〇〇先生の「声」が非常に聞き取りやすいという点は、ほぼ全員が一致した感想を持った。また、出欠確認の際に学生からの質問を受け付けている点を高く評価する意見が多かった一方、講義室の大きさや受講する学生数などの問題で、自身の授業に取り入れるのは難しいという意見もあった。教科書と板書を用いたオーソドックスな大学での講義スタイルでした。

(2) 改善を要する点

教科書中心の授業であるため、教科書を読んで板書するだけになってしまうことを避け、書画カメラを活用するなどの工夫が必要と思われた（特に図など）。

- 説明する箇所（教科書のページ数）を口頭で指示するだけでなく、板書とサイドスクリーンを併用して内容を示すとよりわかりやすい。
- 講義のスピードが少し早い。教科書の内容を口頭で説明することがメインになっているのが原因ではないか？
- サブスクリーンで構造式を映写するなどの工夫があっても良い → この点に関し

ては、構造式を覚えてもらうために学生に実際に構造式を書かせることが重要という意見もでた。

- 特徴ある匂いを持つ〇〇については、実際にそのにおいを学生に嗅がせるなどの工夫をすると学生の記憶に残りやすいのでは？
- 〇〇の写真を見せるなど学生の興味をひくような工夫が必要である。
- 「X先生から聞いていると思うが」が多すぎるように感じた。それほど何度も学生に確認する必要はないように思われる。
- 「〇〇名」などは発音するだけでは学生にはわかりにくいいため、漢字で板書するなどした方がよい（特に今回のように低学年の学生が対象である場合）。
- 学生の理解度を確認する際に、単に「わかった？」と質問するだけでなく、簡単なクイズや宿題などで内容について質問してみたらどうか？
- 学生には事前にプリントが配布されているが、聴講する教員にもあらかじめ資料等を配布して下さると講義内容についてより適切なフィードバックができるように思われた。

その他、授業評価に関することではないが、午後に実習試験がある場合に午前中の講義中に試験勉強をする学生が多かったことは大きな問題であるという意見が挙げられた。これは大学のシステムの問題ではあるが、学生が試験勉強よりも講義を聞きたいと思えるような、教員自身の努力も必要であるとの結論に至った。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- 話し方：メリハリをつけた話し方、間の取り方、話すスピード、授業に関連した雑談を入れるなどの工夫により、講義内容にしっかりとついてきている学生が多いと感じられた。
- 板書：字がきれいだった。
- 出席カードの使い方：代返を防げる？出席している学生を把握できる。
- 教科書の有効的な活用：学生に購入させているため、意識的に多用しているのか？
- 薬剤師国家試験と関連付けた説明

H 班

1. 評価項目

(1) 優れている点

- ポイントのみを板書し、文字が大きく一番後ろでもよく見える。
- 大きな文字での板書。
- 板書中心で学習内容が大変分かり易い。
- 板書による適切な速度と情報量の講義だったと思います。
- 文字が大きく見やすく板書されています。
- 資料などを確認することなく、自分の頭の中のことだけで板書されているので、講義に余裕を感じます。
- 単純な例を使った図説。
- 重要な部分の強調
- 1回の講義内容が多すぎない。
- 学生に対する語りの口調が威厳と親しみやすさを兼ね備えている。
- 80分間ノンストップの講義だったが学生たちは皆、真剣に傾聴していた。

- 授業の端々に織り込んでいたユーモアのある、講義内容と関連したトークは、学生の集中力の保持に役立っていたと思います。
- 声の大きさ、話すスピードが適切
- 適所に雑談を入れ、メリハリをつけている点
- 他の分野とのつながりを話している点
- 適当な間合いを取る。
- 教員への好意度が高いのでしょうか、フロアからのネガティブな空気が漂っていませんでした。

(2) 改善を要する点

- 学生たちの顔を正面から見すえて話す機会がもう少しあってもよかったかもしれない。
- フロアに正対して語る場面が沢山あると良い。フロアも期待しているのでは？
- あまり学生のほうを見ておらず、黒板を向いていることが多いように思います。
- 授業後半に雑談を入れてメリハリをつけたが、すでに学生がだれてきていたため、もう少し早めに手を打った方が良かった。
- 学生に質問し、理解度を確認する。
- 学生の理解度を確認が不十分であった点
- 学生とのコミュニケーションがあまりなかったようです。(コミュニケーションを取ることはカリキュラム的に厳しいとは思いますが)
- 授業に集中していない者への対策
- 残念なことに、遅刻者が目立ちました。
- 教科書の使用頻度が少なかった点
- 教科書持参の徹底(教科書〇〇ページを参照、という場合が多い)

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- 板書における色チョークの多用
- 板書の際に、重要性に応じてチョークの色を使い分ける。
- 感嘆符(!)の使用
- 学習内容の精選。喋り力が無いのに、内容が多すぎるなぁと反省させられた。
- 重要な部分は繰り返して話す
- 学年に合った内容に範囲を絞って講義をするよう、心がけたいと思いました。ついつい低学年には不必要なことまで話してしまうような気がする。
- 「ちょっと話がそれるけど」と前置きしての適度の小話
- 講義が単調になりすぎないように、学生を適度に刺激し、また和ませることのできるようなトークを私も考えてみたいと思います。
- あらかじめ考えているのか、アドリブなのかわかりませんが、授業の内容に対して、簡単な例えを提示し、理解を深めようとしている点を参考にしたいと思います。
- 適当な間合いをとる

- 適所に休憩をはさむ点
- 他分野との関連を多く話していた点（本科目、学問がどの位置づけにあるのかを明確にする）

2. 全体会議での意見交換

- 各評価項目の評価点（平均）は、大部分が高得点であった。（1）授業内容がシラバスに沿っている、（2）教科書を指定している場合、適切に使用している、（4）話は聞き取りやすい、（5）進行の早さは適切である、（11）講義の準備が十分あることから、（12）総合的にみて、わかりやすい授業である、と評価された。また、（6）興味を持たせるような工夫がある、（9）他の授業科目との関連についてふられている、も高い評価であった。
- （8）学生の理解度を確認して授業を進めている、について、「どちらともいえない」が多かったが、限られた時間の中では、学生の表情から推察する程度が限度ではないか。以前に比べて基礎的（やさしい）内容を講義しているが、学生の理解度の差が大きいので、能力別クラスで行うことも必要ではないか。
 難易度をどの程度に設定するかは難しい問題であるが、国家試験などを考えると、最低限のレベルは理解させなければならず、そのためにはリメディアル教育、またはそれに類する教育が必要である。
- 理解させるために、課題を与えて提出させることについて。6年制になり、教員は多忙のため、提出させても採点する時間がとれない。そこで、授業中に小テストをしたあとすぐに、学生に正解を示して自己採点させる、あるいは交換して他の学生が採点する方法がある。採点はこのような方法でできるとしても、課題や小テストに真剣に取り組まない者がいるので、このような形成的評価はワークショップでは有効だが、いまの学生には必ずしも効果的とはいえないとの意見があった（学生の意識・授業に対する姿勢による）。
- （10）私語や不適切な行動があった場合、適切に対応している、について、回答にばらつきがある。授業に如何に集中させるか、教員はそれぞれ工夫しているが、大教室での講義では、全員集中させるのは容易ではない。これに関連して、出席をとるとうるさくなるので出席をとらないのも一法であるが、学則では三分の二以上出席しないと試験を受けられないとしていることを考慮しなければならない。
- （2）教科書を指定している場合、適切に使用している、について。この授業では教科書を指定しており、使用は適切、との回答が多かったが、学生からは教員の教科書が旧版でページがずれていることに関する指摘があった。今年から版が新しくなった場合は注意する必要がある。
- 近年、教科書を指定しても購入しない学生が多いが、授業で扱える内容には限りがあるので購入して勉強させる癖をつける必要がある。重要なところはどこか、とよく問われるが、好きな科目を持ってほしいとの意見があった。
- 以上のように、高い評価を受けた異なる分野の講義に接したうえで、現在の学生に対応するにあたっての課題を討議することができ、意義のある研修となった。

I 班

評価者 8 名のうち、2 名はスケジュールの関係で講義担当者より指定された講義（〇〇）を聴講できず、自由科目の〇〇演習 I を聴講することとなった。〇〇演習 I は、演習科目であり授業評価には適していないと判断し、〇〇を聴講した 6 名の評価者の評価表をもとにレポートを作成した。

1. 評価項目

(1) 優れている点

講義の最初に、この時間の講義の到達目標を黒板に示し、全体の流れを説明した上で講義をはじめていた。そのため、学生は今どの部分を講義しているのか、前後の関係はどうなのかが理解しやすい講義となっていた。また、理論（公式）だけではなく、適切な例題の解説を通して、具体的にどのように公式を使用していくのか、また公式が何を示しているのかを示し、学生が理解できるよう工夫されていた。講義のスピードや板書の文字の大きさ等は、学生がノートをとることに配慮しており、適切だった。

(2) 改善を要する点

学生に理解しやすい講義となっている一方で、黒板に向かって話しており、学生の反応とは関係なく進めていた。学生の理解度を確認しながら講義を進めていけるよう改善が必要との意見があった。この点については、時々学生に質問をしたりすることで改善できると思われた。

声が小さく抑揚がないため、最後まで講義に集中できない学生が散見された。この点は、マイクを使用し、話に強弱をつけ、特に重要な箇所を繰り返し話すこと等で改善可能と思われた。

特に、講義の最初は学生が特にざわついていて、私語はほかの学生にとっても迷惑なことであり、注意を促して静かにさせた方が良いと思われた。

板書の文字の大きさは適切であった一方で、板書の字が薄くて読みづらかった。特に後部の学生には見づらいので改善した方がよいと思われた。

その他、薬学との関連性を話しながら進めるとより良い、必修科目なので出欠をとったほうが良い、などの意見が得られた。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

講義の最初に、到達目標を黒板に示し全体の流れを説明した上で、今はこの部分の講義を行っていると明示しながら進めている点は今後の講義で取り入れたい点の一つである。また、学生がイメージしやすいように具体例を示しながら講義を行っている点も同様である。

J 班

1. 評価項目

各評価項目の平均評価点数は大部分が高得点であった。「私語や不適切な行動があった場合、適切に対応している。」の項目については、「*（該当しない）」または「3（どちらでもない）」であり、聴講した講義時間内ではその項目を判断することが困難であった。総合的に判断して大変すぐれた内容であったと評価された。

(1) 優れている点

- その日の学習到達目標を示してから内容に入っているのは、学生にとっては目標が示されていてよい。

- 要点をまとめてあるわかりやすいスライドで授業を進めている。
- 具体的な過去の事例などをあげてわかりやすく説明している。
- ベテランの先生の講義とはこういうものであるという見本のような大変に手馴れた講義である。
- 教育目標を明確に示し、目指す薬剤師像をイメージできるように工夫している。
- ビデオを用いた講義は、適切である（効果がある）と感じたが、これを全面的に肯定すると我々教員が行う講義の意義がわからなくなる。
- 実際の事項の例示が適切に行われている。
- 強調すべきところは声の調子を変えていた。学生の方を常に向いて話している。身近な話題をプラスしていた。
- 新聞や文献の記事を含め、新しい事項についても取り入れていた。パワーポイント、動画により分かりやすい説明がなされていた。

(2) 改善を要する点

- A組とB組の合同授業なので、大人数の学生がフロネシスの大講義室で行っているため、授業というよりは講演会のような雰囲気である。少なくともクラス別で人数を減らして授業をする方がよい。
- フロネシスの大講義室のため黒板を使用することができず、スライドのみの授業となっているため、学生にとっては眠気を催おしたり、内職をするのに好都合である。（実際後ろの席では内職をしている学生が見られた）
- スライドの字が小さいところがあり、後ろの席では読み取ることができない。また、レジュメも字が小さくて読めないところがあるので、工夫が必要であろう。
- わかり易い説明なので必要ななかったのかもしれないが、理解度を確認する問いかけがあっても良かった。
- 糖尿病などは薬物治療学Ⅳでかなり詳しくやっており、少なくとも臨床系の教科内でお互いかぶらない様すみ分けの調整が必要と感じた。
- ビデオを用いた講義では、講義がスムーズに進みすぎ、かえって学生の印象にも凝らない可能性はないだろうか？
- 特には見当たらない。
- 特にない。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- 具体的な事例を示して学生の興味をひきながら説明するようにしたい。
- 講義のはじめに、これまでの概要と、当日の目的が示されたが、これは学生にとって頭の中を整理しやすくなると思うので自分の授業にも取り入れるよう努力したいと思う。
- ビデオ鑑賞を効果的に用いていた。適切な教材があれば利用したい。
- やはりビデオで視聴覚にうったえる講義は、使い方によっては素晴らしい効果をもたらすと考えられる。
- 時事的で、社会性のある話題に基づく講義を行なう。

2. 全体会議での意見交換

当該講義では、学んだことが将来何の役に立つのか、薬剤師としてなぜ必要なのかを強調し、薬剤師の将来像をイメージできるよう意識付けに力点を置いて講義しているとのことであった。また、学習目標を明確に示すことの重要性も議論の中で再認識された。なお、今回の AB 合同講義のように学生数が多い場合、講義中後ろのほうでは私語や内職をする学生がいる点が指摘された。ただし、上級学年（薬学科 4 年生）

は下級学年に較べると比較的心構えができてきているようであり、静粛に講義を受けようとする姿勢が感じられた。その他、パワーポイントの情報量が多すぎないように注意すること、また、配布するレジメに書き込むスペースを作るなどの工夫が提案された。また、学生の私語については、他の学生に対しても迷惑になるため、教員が適切に注意する必要があるとの意見が出された。

学生アンケートについては、3年生対象の別の講義で後日調査されたものであるため、学生による当該講義の評価とはならなかったが、すべての項目について高い評価が与えられており、学生にとっても満足度の高い講義であることがうかがえた。

4) 学生授業アンケートおけるコメント

下記コメントの数は、コメントをした学生数を示している。

A 班

1. ○年前期の授業の中で一番分かりやすかった。

B 班

1. 黒板消すの早いです。
2. 黒板消すのが速いと思いました。
3. 黒板の文字がもう少し大きくして欲しい。
4. 内容は難しかったが、授業は良かったと思います。

C 班

1. 授業の展開が速いので聞き取れないことが多々ありました。もう少し繰り返し言うか、ゆっくり言って欲しい。
2. もう少し黒板の字を見やすくして欲しい。
3. 黒板の字が省略が多くて考えるのに時間がかかり、授業に集中出来難い。
4. 話しの脱線や詳細説明が多くあり、何が大事なのかがわからない。

D 班

1. 板書の字が小さい、薄いなどで見にくいことが多々あります。マイクが上手く声を拾っていないのか、ぼそぼそ聞こえ聞き取りづらい事があります。質問等の対応について、用語について質問に行ったら、何故か怒鳴られ意欲が削がれてしまった事がありました。未だに質問しただけなのに何故怒鳴られたのか理解できません。以上、板書・声・高圧感が私の気になった点です。先生の授業、内容は非常に興味深く、しっかり学び身につけたいと考えているため、非常に残念です。
2. 字が読めないことや、ごによごによと話して聞き取れないことがあるので、改善して頂けると嬉しいです。
3. 後ろの席だと黒板の字が薄くて見えない時があるので、もう少し濃く書いて欲しい。
4. 黒板の文字をもう少し大きくして欲しい。
5. 黒板の字がはっきり書かないので見づらいです。ごによごによ話すので、聞き取りづらいこともあります。常に教室の前の方で受けてますが、それでも見づらい、聞き取りづらい事が多々あるので、授業が辛いです。

6. 字が読みにくい。
7. 3年の教室は広いので、それを考慮して板書して欲しい。
8. H23年の過去問は「学生共通」にありますが、H24年の本試と再試の問題も入れて欲しい。
9. 試験に英語問題を組み込まないで欲しい。英語問題は「総合英語」の要素が強いので止めて欲しい。今後に必要なのは分かっていますが、それならば課題として提出という形式にして欲しい。
10. 声が聞こえづらいのと細かい所でいちいち怒らないで欲しい。マイクを変えたほうが良いと思います。
11. 自分で教科書を読んでいた方が分かりやすい。
12. 教科書の内容に準拠しており、分かりやすい講義をして下さるので、学習しやすい。

E 班

1. 早いのは良いが、その分プリントをしっかりと作って欲しい。覚えるものとそうでないものの区別もスライド上でつけて欲しい。
2. 少し進むスピード、話すスピードが速くて大変でした。内容は、興味深かったし、分かりやすかったので、速さだけを考慮してもらえたら大変満足でした。
3. 授業は分かりやすいです。復習として2回話をしてくれるので、頭に言葉が残ります。眠くなりません。
4. 最後にスライドを見ると眩しくてスライドが見づらい。
5. 予想問題、テスト対策問題が欲しい。
6. 早口で認識と理解が追いつかない。予め授業プリントを配ってほしい。
7. テスト前に対策プリントを配ってほしい。
8. テスト対策プリント」があると良い。
9. 模擬試験プリントを作ってください。
10. 演習問題を配って欲しい。
11. テスト勉強に使える演習問題を作って欲しい。過去問がテスト勉強につかえるなら、ホームページに載せて欲しい。

F 班

学生からのコメントなし

G 班

1. ○○先生の説明がとても分かりやすいです。ありがとうございます。

H 班

1. 黒板の字を消すのをもう少し遅くして欲しい。
先生の旧教科書と学生の新教科書にページに違いがある。
講義の内容に対応する教科書のページ数を黒板に明示して欲しい。
黒板の図が理解しにくい。
2. 先生のもっている教科書が古い。ページにズレが生じている。
3. どこが大事なのか少し分かりにくい。

I 班

1. 字を濃く書いて下さい。
2. 黒板の字が薄くて見づらい。
3. 黒板の文字が少し薄いので、もう少し濃く書いて下さい。
4. 先生の字が薄い。
5. 板書が薄い。
6. 字が薄いので見づらい。マイクをあまり使わないので聞きづらいことがある。
7. 関西弁をもっとしゃべって下さい。

J 班（教員の聴講日と別の講義でアンケート）

1. 空調が止まっていたため、暑くて集中出来なかった。過去問を配って欲しい。
2. パワーポイントをただ読んでいるだけなので、もう少しメリハリのある授業にして欲しい。
3. 先輩から試験は難しいと聞くので、過去問を出来たら開示して欲しい。
4. 暗くすると眠気が一気に襲います。
5. 医薬品を取り扱う事に重きを置いた職に就くにあたって、厳正に取り組むべき授業であった。忘れてはならない情報がとても沢山あり、分かりやすい説明をしている事にとっても助かっていた。
6. 教科書を読めば分かる内容をわざわざ講義で話さなくても良いと思う。このような講義内容なら出席を義務付けなくて欲しい。